

ずいそう

先を読む

鈴木 正 信



私は、「先を読む」ことに非常に苦手意識を感じている。そのため苦手意識を改善するためにいろいろなことをやってきた。その努力の結果がどうなったか？反省することしきりである。

まずマーじゃん、トランプ、チンチロリン等の遊びは、常にお客様だった。ところが世の中は大変広いもので、こういうことについては、素晴らしい能力を発揮する人がいる。

たまにこういう人に巡り合うと、「どのような見方で、どう判断して、どう勝負するのか、非常に興味深く話を聞いたものだった。

いろいろとその蘊蓄を、何度聞いても肝心のところは、さっぱりと分からない。そのため20年も30年かかっても、腕のほうは全然上達しなかった。もっとも、のめりこんだわけでもないので中途半端が最大の原因かも知れない。

スポーツ神経も同じで、個人技も団体競技も若い時からいろいろやったが、先を読むことが出来ないためにさっぱり上達しなかった。

相手の出方や、球の行方が瞬時にわかったら、こんなに楽しいことはないと思う。これでは、行き当たりばったりのことばかりで後追いの対応では「労多くして効少なし」でくたびれ損で苦勞するだけである。

若い時に山歩きを、しばらく一生懸命したことがある。そのときは、地図と磁石、そして高度計（気圧計）までもって現在位置を確認しながら「先を読む」まねごとをした。

そこまでやっっているながら、深い霧のなかの雪山で方向を失ってしまい、下る尾根を一本間違っただけで先を下ってしまったことがあった。

「間違っただけ」と判断せざるを得なかった時は、既に相当下っていた。遭難を防ぐためには、元に戻るのが、最善の判断であると先輩から教えられていたため、それから苦勞して登り、ようやく間違っただけで戻ることが出来た。

何故間違っただけか。何のことはない。私の行く前に踏み跡があったために、自分で考えることをせずそのまま後を追いかけて行ったのが大きな間違いの原因である。

私の前に踏み跡をつけた人も当然間違っている。何も疑問を感じず、人の後を追いかける。という楽をし

たために、その何倍も苦勞してしまった。

それでは、確率ではどうか。「偶然の出来事」にどう対処したらいいのだろうか。競馬では、本命馬、穴馬、それぞれに狙いをつけて。

これも限り有る資金では、問題解決には、ならない。確率で「先を読む」ことはできても、当てることは、それなりの確率である。

これから先、どうしようか。迷った時に何を「道標」にしたらいいのだろうか。還暦を過ぎてても、まだこのような状況である。不惑の40才は、とっくに過ぎたのに。

仕事柄、天気予報に興味があった。

この世界も、1日、3日、1週間、1カ月、3カ月、寒候期、暖候期といろいろと種類があり、またそれぞれに手法も異なるようである。

毎年10月頃に来冬の降雪量を予測した。但し、予想は「多い」「並み」「少ない」といったレベルであり、それも自分の住んでいる地域だけであって地域のバラツキは、なんとも言えない。

予想の方法は、暖冬が3年続いたのでそろそろ並み以上の降雪があるのではないかと、いった程度であり予想というレベルでは、ない。

そのなかで「カマキリの産卵の高さ」から降雪高さを予想することも出来ると聞き興味を持って毎年予想と結果を比較したこともあった。

それなりに興味がありおもしろいと思った。これからの、何か面白いネタがあれば、楽しんで行きたいと思う。

昨今では、地震予知の分野で相当研究が進んでいるとのこと。今後必ずや実用化されて我々の安全に寄与してくれるのではないかと、期待している。

このように、「先を読む」ことは、興味の尽きないことであるが、なかなか思うように行かない。「神頼み」で行くか。占いで行くか。または、その混合で行くか。理詰めで自己満足で納得して行くか。先行き不明の時代を、安心たらしめる方法は、ないか。

これからも「勝手読み」して、その結果を楽しみながら過ごすことに、したいと思っている。